ザ・プチンズ BITE

[バイト]

カンゲキを遊ぼう

創刊準備号

vol.0

spring 2015

そこを離脱しようとしているのが、今なんじゃないかなぁ

中野成樹（中野成樹＋フランケンズ）

nakano shigeki

**BITE 0号で
インタビュー記事を作るのなら、
是非出て頂きたいという
「脳内リスト」の最上位にいたのが
この方でした。
ナカフラを率い、近年ではソトフラも率い、
大学では沢山の生徒たちを率い、
そこかしこで豊かな演劇を作り続けている
演出家・中野成樹。
実際にお会いして話した内容は、
個人的にも、0号的にも、
非常に有意義なものだと感じています。
文字が細かいとは思いますが、
宜しければご一読下さい。
0号、船出しました。いま。**

なかのしげき○73年生まれ、東京都出身。演出家、有明教育芸術短期大学准教授、中野成樹＋フランケンズ主宰。中野成樹＋フランケンズは、原作を尊重しつつも誤訳と意訳をふんだんに駆使した「誤意訳」というスタイルを提唱する翻訳劇カンパニー。通称は「ナカフラ」。近年は劇場外での演劇的活動にスポットを当てた、外の刺激＋フランケンズ、通称「ソトフラ」も活躍中。

[構成・文] 園田喬也

そういうのは、ヤだな、野暮だな、と

――実はBITEという雑誌名は中野さんの作品を観ている時、頭に浮かびまして（※1）。それで、僕の我が儘なんですが、BITEの0号にはどうしても中野さんにご登場頂きたく。

有り難うございます。

――どうぞよろしくお願い致します。で、今日なんですけど、僕は「小劇場界隈の隆盛」みたいなことに興味があって、例えばナカフラの近況から、それらについて学んでみたいと考えているのですが。

なるほど……。ナカフラは、凄く、良い意味で……、分かんなくなってきている。それを良い意味と捉えているのは、分かんなくなってきているけど、活動は定期的に続けているから。昔「劇場すごろく（※2）」というものがあったじゃないですか。今になって思うと、そのゴールは結局テレビだったんだねって感じだけど。で、それが崩壊した後について、上手く言葉に出来ていないのが実情だろうけど、簡単に言うと、助成金をもらって、国内ツアーをやって、海外に作品を持っていって、公共（※3）と組んで何かをやって、内外のフェスに呼ばれて……というのが、目標になりゴールになる、そういうひとつの流れがあって、ナカフラはそっちに巻き込まれているんだろうなぁと思うんだけれども、個人的に言えば、できればそっちからも離脱したいんですよ。じゃあどうするの？ って聞かれると難しいんだけれども、でもおそらく、そこを離脱した人達が、何かをやり始めようとしているのが、今なんじゃないかなぁ。うちもF/Tというフェスティバルでではあるけれど、街歩き（※4）みたいなことをやらせてもらって、それに実に生き生きと参加する人がいて、楽しくそれを分析する人がいるんですよ。それは悪い意味じゃなくて、ちょっとした驚きだったんですよね。こういうのを求めている人がいる、若い人だって多いと分かった時に、これまでと違う考え方で演劇を作っていくことは可能だし、そうしないともう、息苦しくなって死ぬぞ！ と。資本主義、でかい話じゃないですけど、お金と名誉とお酒は同じであって、いくら貯めても物足りない、飲めば飲むほど喉が渇く。だから、これはもう耐えられなくなるんじゃないかと。ナカフラは国内ツアー回った。じゃあ次は？ って。「加藤さん（※5）、次は海外出たいです。英語の資料作ってガンガン売り込めばそういうの回れますか？」というのが、ヤだな、野暮だな、と思えて。そこから亡くなった熊谷（※6）とやり始めたのがソトフラ（※7）で、「劇場の外で生活とともにやることに何かしらの可能性があるんじゃないか」と、そういうことを考えながらやっている最中です。柴くんが象の鼻テラスとか小豆島でやっている（※8）、演劇っぽいけど厳密に言えば上演作品ではない、的なモノ、僕の中では「みんなそっちに行き始めるのかな？」という気はしています。けれど、そういった所でも領土争いみたいなことに進展するのなら、そこからも俺はすぐ撤退するからな！ という意思だけは持っておきたいんですよね。

商売やるならもっと効率いい商売あるわ！

――凄くよく分かります。僕は中野さんのそういう感覚がとても好きだし、それは観る側にとってもある種の信頼感に繋がりますよね。

いやいや、ないないない。そんなかっこいいものじゃないッス。その昔、日藝（※9）の仲間数人とナカフラとは別の団体をやっていて、そこはとにかく動員動員……という感じだったんですよ。実際そこそこ頑張ったんですけれども、仲間内で「今は自分達のやりたいことをやる時期じゃない。お客さんが観たいものを作っていく時期だ」という話になった時に「そんなの商売じゃねぇかよ！」と。「俺は商売をやりたい訳じゃないからな！ 商売やるならもっと効率いい商売あるわ！」とか思って。その活動はナカフラと数年被るんですけど、だからこそナカフラを始める時は絶対そうならないようにと強く思っていました。他にも、ある演劇フェスの予選で落ちて、審査員に「もっと新劇オタクっぽさを出さないとうけないよ」とか言われて「俺はオメエのビジネス指南聞く為に芝居やってんじゃねーからな！」とか。そういう人達に対する一定の敵意みたいなモノはあるんですよ。それを長島確（※10）に相談したら「それは昔の旦那衆（※11）なんだよ。『お前の芸を見せてみろ。面白ければ囲ってやらんでもないぞ』」と。別に旦那衆に囲われたい訳じゃないというのが、結構あるんじゃないかなぁ、活動の根底に。

――先程のお話に出た「ソトフラ」ですが、おばけ屋敷をやったり、コスプレの講習会を開いたり（※12）、とにかく柔軟な活動をされていますよね。つい最近ナカフラのホームページを見たら、今度は穴埋めクイズみたいなことやるんですか？

池袋の街頭で演劇の台詞の穴埋めクイズのビラを配るんです（※13）。ただ、これ何なのかなぁ？ というのが自分でもよく分からない。

――（笑）。

要はこれ、公演でもないし、何かを宣伝するものでもないんですよ。ビラを渡した時点で始まり、ゴミ箱に捨てられた時点で終わり、みたいな。

――路上でのアートパフォーマンス的な？

いや。あくまで「ビラまき」ということで終わらせたい。

――なるほど（笑）。

この辺も熊谷や、当時あうるすぽっとにいたヲザキ浩実さんと考えていたことで、劇場を外へ持ち出していくという発想で「としまっぷ（※14）」をやってみて、児童館へ行ってその場で即興演劇をやったり、商店街でリーディングをやって、そこの方々に出演してもらって映画を撮ったり、小さなことからコツコツとですね。おそらく、熊谷がとしまっぷで本当にやりたかったことは、完全に行政に踏み込んで行くことだったと思うんですよ。行政に踏み込んで行くというのは、劇場に沢山お金をつけてもらうとかそういうことではなく、例えば豊島区の危険ドラッグ禁止ビデオをフランケンズが製作するとか、婚姻届けのデザインを現代美術の人が担当して、離婚届はヒップホップクルーが賑やかにデザインするとか、そういう入り込み方。そう考えると、コレなんかまだまだパフォーマンス寄りになっちゃってるなぁと思うんだけれども。

誤意訳、歩く、トーク、劇作

――少しだけ『ナカフラ演劇展 vol.2』（※15）に関するお話を。今回はトークあり、お散歩系あり、誤意訳あり、そして中野さんが脚本を担当される演目ありと盛り沢山ですね。

やっぱバラエティ感があった方が楽しいよなという気持ちがあって。前回の演劇展（※16）は過去の作品を集めてやって、じゃあ次は？ と考えた時に、1本はナカフラお家芸の誤意訳があって、ソトフラ的な街歩きのお散歩系があって、いま長島とにしすがも創造舎でやらせてもらっているトーク、これも意外と演劇なんじゃないかと思っていて、じゃあトークもあって、あともういっこ欲しいよなと思った時に「じゃあ書いてみっか」という気持ちになりまして。でも、書いてみるかと言っても元ネタはあって、大学（※17）の授業内発表会で同じようなことをやっているんです。『つながらない点と点、その間に、私達は生きています』というタイトルで、中身は毎年違うんですけど、エチュードから立ち上げるオムニバスものがあって。その発想で、若い人達とやってみて、最終的に俺が書いてまとめるというのを演劇展に混ぜてしまおうと。

――仰った通り「バラエティ感」のある展覧会で、本番を楽しみにしております！ 中野さんお1人へのインタビューは以上です。どうも有り難うございました！

有り難うございました。

――少し休憩を挟みまして、次はBITE創刊号に掲載予定の、中野さんと加藤さん（※18）の対談に移ります。引き続きよろしくお願い致します。

（BITE vol.1［創刊号］に続く……）

※1　その時に思い付いたキーワードは「咀嚼」でした。ただし、BITEという英単語自体には咀嚼という意味はありません。媒体名には複数の意味や願いを込めています。基本は後付けですが

※2　劇団が動員を増やすにつれ、より多くの客席を有する劇場へシフトしていく過程をすごろくに例えた言葉。中野さんが言うように、その「あがり」は劇場ではない場所なのかもしれません。他にも「小劇場すごろく」「下北すごろく」など、様々な言い方がありました

※3　ここでは「公共団体」の意

――

※4　F/T13中野成樹＋長島確『四谷雑談集』＋『四家の怪談』2013/11/9〜24◎四谷エリア、北千住・五反野エリア

※5　ナカフラ制作の加藤弓奈（かとうゆみな）さんのこと。好きなものは「お酒、温泉（ナカフラ公式サイトより）」

――

※6　2014年3月30日に他界された熊谷保宏（くまがいやすひろ）さんのこと。日本大学藝術学部の教授（応用演劇研究）であり、ナカフラメンバーとしても活躍されました。享年46歳

――

※7　「外の刺激＋フランケンズ」の通称。2010年頃よりゆるやかに開始された、「劇場外」で「演劇的」な何かを使い「諸々」をやる、＋フランケンズのセカンドライン。（ナカフラ公式サイトより）

――

※8　劇団「ままごと」主宰の柴幸男（しばゆきお）さんの創作活動のこと。代表的なものに「スイッチ」と呼ばれるアトラクション的パフォーマンスや、合唱や合奏によるライブパフォーマンス等があります。横浜市中区海岸通にある「象の鼻テラス」や、瀬戸内海にある小豆島（香川県小豆郡）での活動が有名です

――

※9　日本大学藝術学部のこと。中野さんは日藝ご出身です

※10　ドラマトゥルクの長島確（ながしまかく）さんのこと。2011年4月にナカフラへ入団。好きな食べ物は「じゃがいも（ナカフラ公式サイトより）」

――

※11　旦那がた。ここでは「お金持ち」あるいは「もののわかった学者先生さま」などの意味

――

※12　ソトフラの主な行いは、商店街でのドラマリーディング・オリジナル映画上映会、児童館での演劇活動、中学校跡地でのおばけ屋敷、路上・電車内などでのみえない演劇、など。（ナカフラ公式サイトより）

――

※13　としまっぷ2014『ことば0verとしま』2015/3/14〜21◎池袋

――

※14　豊島区にある劇場「あうるすぽっと」による企画。「『まちをしる・みる・あるく・かんじてみる』をテーマに、劇場と地域がお互いの理解を深めるためのプログラムです」（あうるすぽっとウェブサイトより）

――

※15　中野成樹＋フランケンズ2015『ナカフラ演劇展vol.2』2015/4/29〜5/3◎シアターノルン　［プログラム］a.中野成樹＋フランケンズ『ラブコメ改』 b.中野成樹＋オオカミ男『ロボットの未来（つながらない星と星）』 C.外の刺激＋フランケンズ『みな区々（みなまちまち）』 d.中野成樹＋長島確『劇場の三歩手前』　［お問い合わせ］080-4299-2830(10:00〜22:00) info@frankens.net

――

※16　中野成樹＋フランケンズ　10周年記念行事第一弾『ナカフラ演劇展 2012/6/7〜20◎こまばアゴラ劇場　他　［プログラム］a.『スピードの中身』 b.『マキシマム・オーバードライブ』『サマーキャンプ』 C.『ズー・ヴァリエーション』『きいてごらんよ、雲雀のこえを』『マクベスのあらすじ』

――

※17　有明教育芸術短期大学のこと。中野さんはこの大学で准教授を務めています。この他、日藝や跡見学園女子大学でも講師を務めているそうです

――

※18　加藤弓奈さんにご登場頂きました。BITE vol.1もどうぞよろしくお願い致します（宣伝）

ザ・プーチンズ

初めて本公演を観た時、その脱力的世界観と
意外性のある笑いにとても惹きつけられた。
劇中の生演奏が格好良かったので、
終演後のロビーでCDを購入したら、
見事にはまってしまった。
ポップで、愛嬌があって、
ストレンジ加減が妙に心地良い、
演劇系ポップユニット「ザ・プーチンズ」に。
本公演の上演中、あることに気がついた。
ザ・プーチンズを見守る客席が、
とても幸せな空気に包まれていたのだ。
ニコニコと笑いながら舞台上へ熱い視線を送り、
ステージを共有することを前向きに楽しんでいる。
ここから「何か」が始まる――。
そんな予感を抱かせてくれた。
創刊準備号であるBITE 0号について
考えていた時、その日の光景をふと思い出した。
あの空気感を誌面に注入してみたい、
表紙はザ・プーチンズにオファーしよう、
頭の中でスッと決まった。
取材当日、3人と同じテーブルにつき、
やりたいことはひとつだった。
演劇公演とライブイベントを並行させる
彼らの活動を、より多くの人に
知ってもらう為の作戦会議を開くこと。
三者三様の発言が、いかにも
ザ・プーチンズらしい音色を立てた。

演劇系ポップユニット「ザ・プーチンズ」を知ろう!

[構成・文]園田喬し　[撮影]鏡田伸幸

まずはメンバー3名の自己紹介

マチオ　ザ・プーチンズの街角マチオと申します。ギターと歌と、時々パーカッションを担当しています。

マチコ　街角マチコです。テルミンと、時々歌を担当しています。

さる太郎　川島さる太郎です。初めまして。僕は作曲とアレンジと打ち込みなどを担当しています。あとホームページとかメルマガも僕がやっています。

マチオ　ザ・プーチンズが活動し始めたのは大体5年位前。

マチコ　2010年ですね。

マチオ　結成当時、まださる太郎はいなかった。

さる太郎　僕とマチオくんは中学の同級生で、元々マチオくんの活動は知っていたんだけど。

マチオ　最初はザ・プーチンズのファンだったんだよね。

さる太郎　ライブへ行く度にステージへ上げられるようになり「もうメンバーでいいんじゃない?」って。

マチオ　正式に仮メンバーになったのが2012年だっけ?

さる太郎　正式に仮メンバー?

マチオ　非常に多才なヤツでして。パソコンとかも詳しいし。

さる太郎　いやいや、あんちょこを見ながらやってるだけだけどね。

マチオ　Shiftキーを押すのが上手い。ControlキーとAltキーの使い方が非常に的確で、見ていて惚れ惚れするんですよ、さる太郎さんは。

ザ・プーチンズは、劇団?バンド?

マチオ　ザ・プーチンズ＝演劇系ポップユニット、というのが一番しっくりきます。始まりは音楽で、最初はカバーばっかりやっていました。徐々にオリジナル曲も作り出すんですが、お客さんは初めて聴くわけだし「何か説明を入れたいな」という気持ちで(台詞仕立ての)前振りを入れるようになり。

マチコ　オリジナルをやる前も、MCが長いとか小芝居を混ぜるとか、そういうのはありました。

マチオ　お喋りは元々長かったです。

マチコ　私は昔「むっちりみえっぱり」という劇団をやっていて、その縁もあって、五反田団がやっている『新年工場見学会』という企画に出させて頂いて、前田(司郎)さんに「今度ここ(※アトリエヘリコプター)で演劇公演をやらない?」と誘われ、そこで初めて長い作品を作って。

マチオ　台本は僕が書いているのですが、とにかくなんでもありの演劇公演の魅力にはまってしまって。第一回公演の時、まださる太郎はいなかったね。

さる太郎　僕が参加したのは『もみじ市』というイベントが最初かな。

マチオ　さる太郎のデビュー戦、その時の動画がネット上にあります。どう思われるか分からなくてドキドキしたけど、とりあえずやってみた。

さる太郎　僕が意外と人気者だということが分かったよね。

プロモーション会議、スタート!

マチオ　さる太郎どう思う? でも、お前が入って人気が上がっているからさ。

さる太郎　そうね。「かわいい」って声はよく聞くね。

マチコ　男女デュオともちょっと違う、この関係性が。

マチオ　男がメインで歌って女がテルミンを演奏するというスタイルは、まずいないから。

さる太郎　そこに僕がね。

マチオ　そうそう。3人でやりたいという感じはすごくある。それと、個人的にはもっとマチコさんに歌わせたい。

マチコ　歌は本当に下手なんです。

マチオ　(笑)。

マチコ　ジャイアンリサイタル、みたいなネタがあるくらい。

マチオ　やばいです。絶対音感もちょっとあるのにね。

マチコ　あるけど、それが全く歌に活きない。

マチオ　無用の長物としてある。

マチコ　マチオさんは「奇天烈なことをしれっと言う」とか「Sキャラになって客席をいじる」とか、そんな風にみられがちだけど、結構シュッとしているので、まじめな空気をつくる瞬間もあって。

マチオ　マチコさんは顔が西洋風だから、ビジュアル面を推そうと一時期頑張ったんですけれども、結果誰も喜んでいないという。

マチコ　この歳でビジュアルをどうこうというのも……。

マチオ　反応してくれる人がいるかな? と思ったんだけど、ピクリとも反応がなかった。

会議は続く。テーマは「これからのザ・プーチンズ」

マチオ　とにかくお客さんを心の底から、120%満足させたい。特に演劇公演は座って観られるし、空間的に老若男女を問わないから、そこが良いなと思っていて。

マチコ　演出とか空間を作ったりするのが好きなので、ライブだけだと少し物足りないかも。

マチオ　演劇と音楽、両方やりたい。欲張りですけど。音楽で言うと、スタンディングのライブでしかできないことも追求したい。今までは座って観るライブが多かったから。

さる太郎　僕はマチコさんからマトリョミンを弾くように言われていて。

マチコ　マトリョミンというマトリョーシカ型のテルミンがあって、あれはキャッチーなので。

さる太郎　カウベルはやったことある。

マチオ　ははは、楽器やりたいの?

さる太郎　ミュージシャンである以上、僕も楽器をね。ライブ中の僕の存在感がお喋りだけになっちゃうっていうのがさ。僕もかわいいだけじゃないんだぞ! というのを。

マチオ　演劇で言うと、30分のロングコントとか、そういうものにもトライしていきたい。

マチコ　ネタ的なことは、私はあまり……(笑)。

マチオ　とにかく僕ら、舞台芸術が好きなんですよ。ライブハウスであろうが劇場であろうが、エンターテインメントであれば形は何でもよくて。いわゆるパッケージされたものではなく、自分から探しに行かないと出会えないものを作り続けていきたいですね。

街角マチオ
まちかどまちお◯東京都出身。ミュージシャン、俳優。2010年、テルミン奏者の街角マチコと演劇系ポップユニット「ザ・プーチンズ」を結成。ギター、ボーカル、作曲等を担当する。演劇公演では作・演出を担当。

街角マチコ
まちかどまちこ◯東京都出身。ミュージシャン、俳優。2010年、ギタリストの街角マチオと演劇系ポップユニット「ザ・プーチンズ」を結成。テルミン、その他を担当する。都内カルチャースクールにてテルミンの講師を務め、自身も「テルミン大学」を主宰、生徒多数。

川島さる太郎
かわしまさるたろう◯東京都出身。ミュージシャン、会社員。2012年、中学校の同級生だった街角マチオに誘われ、ザ・プーチンズに加入。作曲、アレンジ、打ち込み等を担当する。

[ザ・プーチンズ／次回予定]
ワンマンライブ「ぶ道館 Vol.4」6/7◯原宿ストロボカフェ(※前売完売)
主催フェス「全日本テルミン選手権」9/13◯吉祥寺複数会場

BITE POWER PUSH !!

BITE編集部が「強く推したい」公演をピックアップ　アナタの「観たい！」を後押しさせてイタダキマス

団体名 ぬいぐるみハンター

公演名 『すべての犬は天国へ行く』

BITE編集部⇨やはり、ぬいぐるみハンターが『すべての犬は天国へ行く』（脚本／ケラリーノ・サンドロヴィッチ）を上演する、ということに最大の関心があります。この公演に挑む、池亀さんの心境をお聞かせ下さい。

[脚本]ケラリーノ・サンドロヴィッチ
[演出]池亀三太
[出演]ザンヨウコ 月野木歩美（サモ・アリナンズ）
たなか沙織 工藤さや（カムキヤッセン）
今城文恵（浮世企画）他
前売¥3,300 当日¥3,500 他
[お問い合わせ]ぬいぐるみハンター
info@nuigurumihunter.com
[Twitter]@nuigurumihunter
[web検索ワード]ぬいぐるみハンター

18歳の上京したての頃、本多劇場で初めて触れたケラリーノ・サンドロヴィッチさんの作品に圧倒されて、恋焦がれ、今もその熱が冷めぬまま演劇の道の入り口付近を数年うろうろしています。そろそろここから先に進むべく『すべての犬は天国へ行く』という傑作をお借りしました。もう逃げ道がどこにもないなといった心境です。（池亀三太／演出）

公演日 4月29日〜5月10日◎王子小劇場

団体名 木ノ下歌舞伎

公演名 『三人吉三』

BITE編集部⇨大作の通し上演ということで、木ノ下歌舞伎にどっぷり浸れる日が待ち遠しいです。予習として「事前に知っておくとイイかも」的な知識や助言があれば是非教えて下さい。

木ノ下歌舞伎『三人吉三』（2014年／初演）［撮影］清水俊洋

[Twitter]@KINOSHITAkabuki
[Facebook]木ノ下歌舞伎

[監修・補綴]木ノ下裕一
[演出・美術]杉原邦生
[作]河竹黙阿弥
[出演]大村わたる 大橋一輝 堀越涼
村上誠基 熊川ふみ 藤井咲有里
武谷公雄 他
一般¥4,000 U-25¥3,000
高校生以下¥1,000
幕見¥1,500（※6/6より
木ノ下歌舞伎にて受付）他
[お問い合わせ]木ノ下歌舞伎
050-3636-3734
info@kinoshita-kabuki.org

うーん、そうですねぇ。お手軽に、楽しみながら予習するには、松井今朝子氏の小説『幕末あどれさん』がおススメ。『三人吉三』の作者・黙阿弥が主要人物として登場し、史実に基づきつつも、幕末の動乱が生き生きと描かれています。『三人吉三』の時代背景を知るためにも恰好の入門書です。『三人吉三』は1860年（安政7年）に初演されました。つまり、あと数年で江戸から明治に変わる、時代の転換期に生きる人々を描いた戯曲です。ですから、稽古をすればするほど「これは現代を生きる私たちの姿ではないか?」と錯覚しそうになります。歌舞伎の名作と呼び声高い演目ですが、ぜひ「古典だ」とか「歌舞伎演目だ」とかいう先入観をお持ちにならず、お芝居をフラットにエンジョイしてやろう! という心もちでお越しください。こちらは、上演時間5時間の一大エンターテインメントにするべく総力を上げて待っています。きっと、江戸の人々の〈声〉が時空を超えて、身に迫って聴こえてくると思いますよ。（木ノ下裕一／監修・補綴）

公演日 6月13日〜21日◎東京芸術劇場 シアターウエスト

団体名 岩井秀人×快快

公演名 『再生』

BITE編集部⇨命にまつわる物語をトリッキーに展開させる『再生』の初演（06年）は本当に衝撃的でした。9年前のことをいまだに覚えているのだから、今回の上演も、そりゃあ期待しかありません。しかも、こんなにソソられる組み合わせで観られるとは!

[演出]岩井秀人
[原案]多田淳之介
[プロデュース]北川陽子
[出演]大道寺梨乃 野上絹代
山崎皓司（以上、FAIFAI）
天野史朗 後藤剛範（国分寺大人倶楽部）
テンテンコ（ex.BiS） 中林舞
一般¥3,500 学生¥3,000 当日¥3,800 他
[お問い合わせ]快快
info@faifai.tv
[Twitter]@faifaijapan
[Facebook]faifai
[web検索ワード]Faifai.tv

ある日の岩井さんとの飲み会。の席で出た話をそのままホントに実行しちゃお! 今しかない気がする! 爆破だー! って事で、今回の企画。多田氏の発明したエキセントリックな演出はそのままに、リハーサルであーだこーだ言い合いながらセリフらしきものは出来ていく予定です。リハが始まってみないとわからない博打感があります。が、今しか出来ない最高の座組で臨む準備は整いました! 舞台というヒトのつくりし最大の恋人を、真面目に愛し追いかけ続けて早10年。これは我々FAIFAIから皆様へのプレゼントです。どうぞお見逃しなく!（北川陽子／快快主宰・プロデューサー）

公演日 5月21日〜30日◎KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ

団体名 Baobab

公演名 『Marina bay Sans』

BITE編集部⇨Baobabの作品は「身体が語りかけてくる」というか、より間近で観たいと思わせる吸引力があるように感じています。公演毎に変わるストーリー性も興味深いです。次の本公演で北尾さんがどんなことにトライするのか、今から楽しみにしています。

[振付・構成・演出]北尾亘
[出演]久津美太地 岡本優 村田茜
傳川光留 井草佑一 柴田菜々子
目澤芙裕子 米田沙織 北尾亘
一般¥2,300 学生¥1,500
高校生以下¥1,000 当日各¥500増し
[お問い合わせ]
GALA Obirin 2015実行委員会
syouhei_gala2015@yahoo.co.jp
[Twitter]@dd_baobab_bb
[Facebook]Baobab Dancecompany

「Marina Bay Sands」→シンガポールのマリーナ・ベイに面した総合リゾートホテル。「san」→アフリカのカラハリ砂漠に住む移動民族。体は全体的に小柄。〈打ち寄せる高揚感「少しだけ終わりを意識して」未だ見ぬ広大な景色、当て所なく漂流。どんな港にも朝は来る〉Street Danceから放つ、異色のスピンアウトパフォーマンス!! Baobab初単独公演から4年の月日を経て……母校桜美林大学［学生芸術祭GALA Obirin 2015］に凱旋。我々の原点、ここにあり。WSも同時開催!（北尾亘／振付・構成・演出）

公演日 6月19日〜21日◎桜美林大学PRUNUS HALL

団体名 MCR

公演名 『死んだらさすがに愛しく思え』

BITE編集部⇨櫻井さんが手掛ける作品は、笑いと男気でヒトを奮い立たせる、極めて優秀な「ダメ人間賛歌」だと思っていて、ダメがデフォルトの僕はいつもシンパシーを感じています。今作はMCR初進出のザ・スズナリでの上演ということで、下北でオススメの居酒屋があったら教えて下さい。

[作・演出]櫻井智也
[出演]川島潤哉 有川マコト 奥田洋平
澤唯 後藤飛鳥 堀靖明 櫻井智也 他
前売¥3,500 当日¥3,800
[お問い合わせ]MCR
090-4123-6100
mcr@mc-r.com
[web検索ワード]劇団MCR

ダメ人間賛歌、ありがとうございます。自分としてはダメ人間賛歌を描こうと思っているわけではないのですが、自己分析と自己弁護を繰り返しているうちに「まあ、それだったら生きててもいいよね」ぐらいは言って欲しいという衝動がそのまま作品に出てしまっているんじゃないかと思います、姑息です。スズナリで上演ということでテンションも上がりそうなもんですが、最近は春のせいか無気力な毎日を過ごしており、心拍数が上がるのは競馬やってる時ぐらいですけど、公演は5月末なのでその頃には金も尽きて真摯に作品作りに励んでいると思います、よろしくお願いします。下北でおすすめの居酒屋は「肉人」と「両花」です。（櫻井智也／作・演出）

公演日 5月29日〜6月2日◎ザ・スズナリ

［BITE誌面への広告出稿に関して］

BITEでは用途・目的等に合わせた広告スペースを各種ご用意しております。
サイズはヨコ1/9ページ（51ミリ×68ミリ）から1ページまで。
料金は¥10,000から、掲載サイズに合わせてのご提案となります。
今この文章を載せているスペースも掲載サイズのひとつです。ご参考までに。

広告に関するお問い合わせは、下記アドレスまでお願い致します。

［お問い合わせ］toiawase.bite@gmail.com

BITE編集部

BITE VOL.1

2015年6月30日㊋創刊！

http://www.land-navi.com/bite/

［Twitterアカウント］ @BITE_edit

※詳細はBITE公式サイトにて随時紹介させて頂きます

ごあいさつ

初めまして。この度、BITE（ばいと）という名前の媒体を作ることになりました。いま皆さんが読んでいるコレは0号（創刊準備号）に当たります。1号（創刊号）は6月30日（火）発行予定です。

雑誌『BITE』は演劇関連情報を扱う同人誌にしようと思っています。ウェブ上に宣伝記事を掲載することも視野に入れていますが、割とアナログっぽい活動がメインになりそうです。デジタルな世界で完結するのではなく、できれば、出掛けたり、体感したり、味わったりして欲しいと考えています。現場の空気を吸わないと掴めないコト、結構ありますよね？ ここで「うんうん」と頷いて頂けることが、BITEの目標のひとつです。

今回はパイロット版（資料）なので、ページ数も少ないですし、価格もつけていませんが、次の第1号からは、記事や企画をグッと増やして、雑誌として販売させて頂きます。値段は¥1,000（税込）にする予定です。この話をすると、よく「高い」と言われます。でも、すみません、その値段でやらせて下さい。お買い求め頂いた後に「やっぱり高かった」と感じられた場合、それは編集部の完敗を意味します。ただ、そうならぬよう、ひたすら頑張ります。内容的には、演出家や俳優のインタビュー記事は勿論のこと、オススメ公演の紹介、団体紹介、演劇人コラム、観劇の後押しになるような情報や企画、チケット割引情報、etc を検討しています。

「それ、どこで買えるの？」と思われた方、ありがとうございます。基本的にはBITE公式サイトでの通販と、あと、演劇公演を行っている団体さんの物販スペースにお邪魔出来ればと考えています。少し補足をするならば、もし宜しければ、なるべくその物販スペースにてお買い求め頂けると嬉しいです。BITEを売ってくれた団体さんにも売上を分配できるような、そんな同人誌を目指しております。

それでは、6月30日に再びお会い出来ることを心から願いつつ。無事発行出来るといいナァ……、なんて他人事のようですが、偽らざる本音を言いますと、相当ドキドキしています、あらゆる意味で。いや、頑張ります（笑）。最後に。ツイッター、細々とやっております。創刊に向けイロイロつぶやこうと思っているので、フォローはどうぞお気軽に。公式サイトは絶賛準備中です。もう少々お時間頂きます。広告とか、情宣とか、そういった「問い合わせ関連」も大歓迎です。メールなどお待ちしております。特に「人材募集」は熱望しています。興味を持って下さった方は是非。さて、挨拶が長くなりましたが、今後ともBITEをよろしくお願い致します。（園田喬し）

［BITE×アナタ］人材募集

BITE編集部では「BITEの活動をお手伝いしてくれるヒト」を募集しております。ライター、カメラマン、編集補助、ウェブ関連など、様々なカタチでご協力を賜りたいです。本心です。経験、年齢は不問。演劇が好きで、BITEの諸活動に興味を持って下さる方、ご連絡をお待ちしております。

［問い合わせ］
toiawase.bite@gmail.com

BITE vol.0（spring.2015／創刊準備号）
［編集・発行］BITE編集部 ［アートディレクション］釣巻敏康 ［デザイン］釣巻デザイン室 ［編集人］園田喬し
2015年4月発行 http://www.land-navi.com/bite/ ［Twitterアカウント］@BITE_edit